

砂漠に「集中豪雨」なぜ

ナゾ 謎 かがく

どの雨量は「2000年以降では昨年11月5日と今回だけ」（気象庁気候情報課）。2年連続の珍現象となった。

集中豪雨の発生には温った暖かい空気、局所的な上昇気流、それに上空

大学の安成哲三教授は「25日のジッタでは、3つの条件がちょうどそろった」と説明する。

気候情報課によると今

年はインド洋西部の海面水温が高く、アラビア半島の湾岸部の湿度も平年

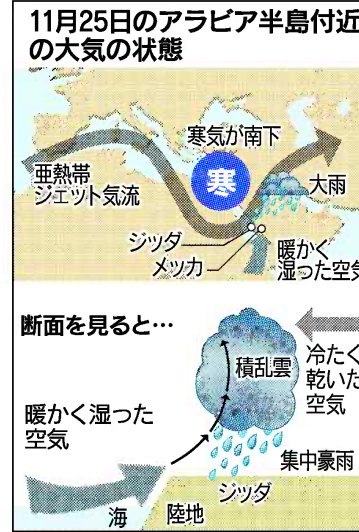
強い気流南下、条件そろって

の乾いた寒気——が必要だ。こうした条件下で積乱雲が発達する。名古屋

よりも高い。当日、ジッタでは南風が吹き、紅海から水蒸気を含む空気を

11月25日、サウジアラビア西部の港湾都市ジッタで大雨が降り、数時間で1年分に相当する100ミリの雨量を記録した。砂漠地帯にとってはまれにみる「集中豪雨」。洪水が発生し100人を超す死者が出た。砂漠でなぜ大雨が降ったのか。

アラビア半島は11〜4月が雨期で、湾岸部は局地的な雨に見舞われることもあるという。ただ、1日で100ミリを超すほ



今年エルニーニョ現象が発生し、赤道沿いの西太平洋の海面水温が例年よりも低い。その結果、この海域で成長する太平洋高気圧が弱く、東アジア付近で亜熱帯ジェット

が南下した。ただ、それが中東付近の気流や気候にまで影響するのは、はつきりしない。

北海道大学の山崎孝治教授は「地中海付近の亜熱帯ジェットは北大西洋の気候の影響を受ける。

（エルニーニョは）地理的に離れ過ぎていて」と否定的だ。一般に、アイスランド付近の低気圧が弱まるとジェット気流が南下しやすい。ただ、数

カ月単位の傾向なので「短期間の影響はわからない」（山崎教授）。

専門家は地球温暖化と結びつけることには慎重だが、温暖化が加速すれば大陸に挟まれた紅海の水温上昇が顕著になり、海から大量の熱と水蒸気が供給されやすくなる。砂漠の豪雨はそう珍しくなくなるかもしれない。（編集委員 青木慎一）